

一般社団法人日本小児血液・がん学会
令和2年度臨時社員総会議事録

- 1.日 時：令和2年11月20日（金） 15時00分～16時00分
- 2.場 所：ZOOM ウェビナー
- 3.出席者：社員（評議員）総数 270名 この議決権数 270個
出席社員（評議員） 238名（委任状を含む） この議決権数 238個
- 4.出席理事：天野 功二、井上 健、大賀 正一、小川 千登世、奥山 宏臣、康 勝好、
塩飽 仁、多賀 崇、高橋 義行、滝 智彦、滝田 順子、西川 亮、
菱木 知郎、藤 浩、淵本 康史、松本 公一、盛武 浩、米田 光宏
- 5.出席監事：檜山 英三
- 6.議 長：大賀 正一
- 7.定足数

以上のとおり定足数に達したので、定款の規定により理事長 大賀 正一は議長席に着き、開会を宣した。まず逝去された会員へ黙祷を捧げた後、大賀理事長より、挨拶および会員数等の現況および理事の欠員領域に関する報告(天野理事、西川理事の任期継続)があり、あわせてこれからの本学会の活動について説明がなされた。

その後、第62回学術集会 菊田 敦 会長より学術集会開催に関する挨拶が述べられ、その後議事に入った。

第1号議案 議事録署名人の選任の件

議長は、議事録署名人について、本日出席の大植 孝治 評議員と工藤 寿子 評議員の2名を指名し、その承認を諮ったところ、全員異議なく承認された。

(報告事項)

1-1 庶務報告の件

議長は、庶務・財務委員会松本公一担当理事に報告を依頼し、松本担当理事より庶務報告がなされた。

1-2 令和2年度上半期事業報告

各委員会担当理事より、委員会活動状況について、資料をもとに以下の報告がなされた。

<規約委員会>

- ・常設委員会および疾患委員会に関する定款施行細則改正を行った。

<評議員等資格審査委員会>

- ・令和2年度新規評議員申請者について審議した。
- ・評議員資格喪失に関する審査を実施した。

<利益相反委員会>

- ・役員、委員、学術集会発表者の利益相反管理を行った。

<学術集会プログラム委員会>

- ・第62回学術集会優秀演題を選定した。

<学会誌編集委員会>

- ・学会誌発行状況が報告された。
- ・学術集会における依頼演題の講演記録（依頼総説）について審議した。
- ・複数の非会員から JSPHO 学会誌閲覧希望があったことから、閲覧方法や料金について議論を行った。過去の事例も参考に、理由の如何に拘らず、閲覧希望の論文を pdf ファイルの形で提供し、3,000 円（税別、もしくは 30 ドル）で購入してもらうこととなった。

<診療ガイドライン委員会>

- ・日本癌治療学会がん診療ガイドライン統括・連絡委員会への領域担当委員としての参加
- ・小児慢性特定疾病の「概要」および「診断の手引き」の改訂
疾患委員会と連携して、年内に改訂作業を終えるよう取り組んでいる。

<学会賞等研究審査委員会>

- ・第 10 回日本小児血液・がん学会学術賞受賞者、第 1 回小児がん病理病態研究学術奨励賞、令和 2 年度大谷賞受賞論文が報告された。

<研究審査委員会>

- ・研究審査委員会審査状況が報告された。
20 歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究について、現在審査中。

<学術・調査委員会>

- ・「20 歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」を JCCG 固形腫瘍観察研究とも連携する (2020 年 5 月～) 新規登録システムとして構築し、2018 年症例からの症例登録が始まった。
- ・COVID-19 に関するガイダンス、関連論文の調査、HP での情報提供
各学会、研究組織 (COG, SIOP, St Jude HP, ASH etc) より出ているガイダンス、statement の翻訳、関連論文の要約を行い、一般向け、医療者向けに分けて HP で公開。
随時更新している。また関連 HP リンクについてアドレスも掲載している。
- ・厚生労働科令和元年度厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業「小児・AYA 世代がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の均てん化」（鈴木班）でアンケート調査を行い現在解析中。
- ・厚生労働科学研究班「全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究班（平田班）へ小児がんに関連する学会として出席し、情報交換を行っている。
- ・2019 年の登録症例の集計状況が報告された。

<疾患委員会>

- ・各疾患小委員会の新委員メンバーが報告された。

<看護委員会>

- ・前委員会で企画し実施した医師・看護師対象の全国調査が終了し、一部の結果を今年度学術集会で発表予定。
- ・患児の家族を対象にした調査は年内まで継続して実施し、分析がまとまり次第順次結果を発表していく予定。

<教育・研修委員会>

- ・地区セミナー、教育セミナー、緩和ケア研修 CLIC の予定が報告された(Web 開催)

関西地方は現地開催、中国地方は現地と web のハイブリッド開催の予定。

<専門医制度委員会>

・ COVID-19 感染への特別対応

- ① 専門医研修施設の暫定認定要件の暫定措置を 2022 年まで 1 年延長する。
- ② COVID-19 感染対策により中止になった学会等を考慮して、暫定的に 2021 年 2 月に更新予定者のうち、基準に達しなかった該当者は、1 年間の更新猶予を認める。
- ③ 第 7 回日本小児血液・がん専門医試験(2020 年 9 月 12 日、13 日施行予定)を 1 年延期する。2020 年度に受験者は、延期された試験に合格した場合、1 年さかのぼって専門医を認定する。
- ④ 2021 年 3 月 31 日で認定期間が終了する暫定指導医の認定期間を 2022 年 3 月 31 日まで延長する。

・ 2021 年問題 (COVID-19 対応のため 2022 年問題となる) について報告があり、対応策として新たに研修施設を基幹施設と連携施設に分けて認定して研修施設群を形成するという方式を検討中であることが報告された。

<社会・広報委員会>

・ 学会ホームページのリニューアルについて報告がなされた。

<保険診療委員会>

(1) 免疫遺伝子再構成を利用した定量 PCR 法による微小残存腫瘍検査 (PCR-MRD)

① 2020 年度 PCR-MRD 検査施設の新規学会認定

LSI メディエンス

(2) 2022 年度診療報酬改訂に向けた準備作業

- ① 内保連を介した要望提出：12 月 10 日の内保連への一時提案書提出にむけ、学会員からの要望募集 (11 月 10 日締切) を行い、準備作業中
- ② 本学会からの直接提出：内保連での調整後に必要に応じて設定
・ 「医療上必要性が高い未承認薬・適応外薬検討会議」への要望提出 7 件について報告がなされた。

<長期フォローアップ・移行期医療委員会>

・ 昨年度に引き続き LCAS 研修を継続している。今年度はコロナウイルスの感染拡大により Web 研修として 9 月より実施中との報告がなされた。

<第 65 回日本小児血液・がん学会学術集會会長選任結果の件>

議長より、理事会における審議の結果、真部 淳 評議員が第 65 回日本小児血液・がん学会学術集會会長(2023 年 9 月 29 日～10 月 1 開催予定、於：北海道札幌市)に選定されたことが報告された。真部 淳 評議員より就任の挨拶がなされた。

1-3 第 63 回日本小児血液・がん学会学術集會準備状況報告の件

議長は、井上 雅美 次期会長に報告を依頼し、井上 雅美 次期会長より第 63 回日本小児血液・がん学会学術集會の準備状況について以下の報告がなされた。

- ・ 会期：2021 年 11 月 25 日 (木) ～27 日 (土)
- ・ 会場：大阪国際会議場
- ・ テーマ：Science and Narrative

1-4 第 64 回日本小児血液・がん学会学術集會準備状況報告の件

議長は、次々期会長に報告を依頼し、越永 従道 次々期会長より第 64 回日本小児血液・がん学会学術集会の準備状況について以下の報告がなされた。

- ・会期：2022 年 11 月
- ・会場：東京都内(予定)

議長は、以上をもって一般社団法人 日本小児血液・がん学会の令和 2 年度臨時社員総会に関するすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

令和 2 年 11 月 20 日 一般社団法人日本小児血液・がん学会 臨時社員総会

議 長 大 賀 正 一 ㊟

議事録署名人 大 植 孝 治 ㊟

議事録署名人 工 藤 寿 子 ㊟